

2013年(平成25年)12月18日

るとともに、ICT 術要素展「ENE-X」知見をテーマに会議系を活用した水スマート Smart Ener イベントを開催する。時間開催含む

廃棄管路を充填閉塞

研究会 クリートセル工法

大阪・京都でデモ施工

陥没事故対策に

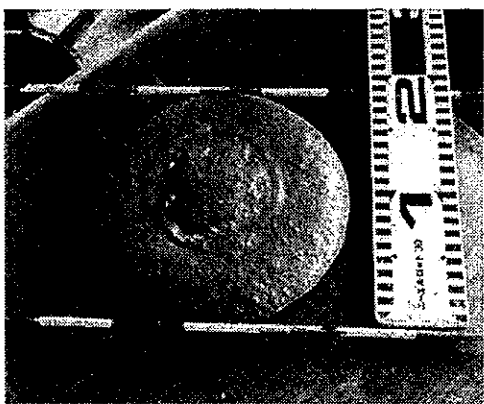
管路更新やルート変更などで廃棄を余儀なくされた既設管路を撤去する代わりに、交通対策や経済性、安全性などから管内部にモルタルなどを充填するケースがある。繊維質混和材（セルクリート）を使った発泡モルタル

は11月13日、大阪市此花区常吉の坂出興産にて同工法のデモと説明会を開催した。今回、従来工法では100%の充填は困難とされる伏せ越し管の模擬体を使用した。大阪府内の上下水道局職員ら30名が出席、施工の実際を見学し、質疑応答を行った。14日には京都府城陽市内でも、説明会を行った。

セルクリート工法はセメントにセルクリート、水、気泡を配合した発泡モルタル（耐水性軽量繊維質モルタル）の工法。同モルタルは流動性に優れているため管路では500以上の長スパン施工や、滞留水のある場合でもブリージング（材料の分離）や気泡消滅を起さないため、硬化後、空洞を生じないなどの大きな特長がある。

セルクリートはリサイクル紙をセルロース状に分解した繊維質の材料を細骨材に使用することで、発泡モルタルそのものの流動性や軽量化とともに、たとえば管内滞留水に対して分離抵抗性を発揮し、水との接触面が乱されにくいなどの特性がある。その特性によって従来のエアモルタルやエアミルクの充填で発生する硬化後の空隙の発生を抑制し、管路の安全な廃棄に貢献できるとして

伏せ管への圧送デモ（上）とセルクリート（下）



「イス」はじめ、民需向け排水処理設備で多くの納

同工法は現場状況に応じて攪拌・注入設備一式を積載した車上プラントでの施工と生コンプラント方式での施工が選べる。いずれも作業後、設備の撤去が容易なため、現場の即日開放もできる。充填材は時間経過により材料特性の変化が少なく、流動性を長時間保持するため離れた場所からの充填や長スパンの充填が可能。セルクリートを使った充填材は廃棄管路への利用の他、埋戻し材、軽量盛土などにも利用できる。

調査検討委を立ち上げ

下水道機構 国・自治体の課題解決

日本下水道新技術機構は11月21日、平成25年度第一回調査検討支援委員会（委員長 津野洋・大阪産業大学人間環境学部教授）を開いた。同委員会は、地方公共団体との調査研究や国の施策支援に係る調査研究に関して、必要に応じて技術的な助言を行うもので、これまで同機構が携わった技術マニュアルおよび共同研究▽雨天浸入対策に

下水道の役割が若い世代に伝えられていないことを嘆き、一般へのPRとして、下水道の価値を普



栗原氏

関する研究▽下水道マンホールふた性能評価検討▽下水道革新的技術の普及促進方策検討）を対象にし、委員会内で検討が行われる。

委員は以下の通り。▽尾崎正明・国土交通省国土技術政策総合研究所下水道研究部▽水道機能復旧研究官▽植田達博・日本下水道事業団事業統括部長▽石川眞・横浜市環境創造局政策調整部政策課下水道政策調整担当課長▽長谷川浩一・横須賀市上下水道局技術部技術推進課長